



2024年2月28日発行

安全データシート (SDS : Safety Data Sheet)

1. 化学品及び会社情報

化学品の用途、名称

：人造大理石トップの連結 グループ1（ベーシックホワイト）・グループ2（シルフィーグレー、シルフィーベージュ、ソルティホワイト）、接着剤セット 主剤

供給者の会社名称：株式会社 LIXIL

住所：東京都品川区西品川一丁目1番1号

電話番号：0570-090-521

項目2以降は、2頁以降を参照

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : 人大L型接合用接着剤-主剤
会社名 : 高圧ガス工業株式会社
住所 : 千葉県佐倉市石川 620-1
担当部門 : 品質保証部 品質保証課
電話番号 : 043-485-2241
FAX 番号 : 043-485-4798
緊急連絡先 : 043-485-2231
推奨用途及び使用上の制限 : シーム材、接着剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

・引火性液体 区分2

健康有害性

・皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2
・眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A-2B
・呼吸器感作性 区分1
・皮膚感作性 区分1
・生殖毒性 区分2
・特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性 麻酔作用)
・特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器,中枢神経系)

環境有害性

・水生環境有害性 短期(急性) 区分2
上記記載がない危険有害性は、区分に該当しない又は分類できない

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

H225 ・引火性の高い液体及び蒸気
H315 ・皮膚刺激
H319 ・強い眼刺激
H334 ・吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
H317 ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H361 ・生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H335 ・呼吸器への刺激のおそれ
H336 ・眠気またはめまいのおそれ
H372 ・長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器,中枢神経系の障害
H401 ・水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

P201 ・使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P210 ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
P233 ・容器を密閉しておくこと。
P235 ・涼しいところに置くこと。
P240 ・容器を接地すること/アースをとること。
P241 ・防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
P242 ・火花を発生させない工具を使用すること。

- P243 ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- P260 ・ ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P264 ・ 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする事。
- P270 ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- P271 ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- P272 ・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P273 ・ 環境への放出を避けること。
- P280 ・ 耐有機溶剤性の保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- P284 ・ 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

- P303+ P353 ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合：皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- P361+ P363 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、汚染された衣類を再利用する場合には洗濯をすること。
- P333+P313 ・ 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断/手当を受けること。
- P304+P340 ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- P342+P311 ・ 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
- P305+ P351+P338 ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P337+P313 ・ 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当を受けること。
- P308+P313 ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。
- P370+P378 ・ 火災の場合：消火するために(粉末消火剤、炭酸ガス、泡消火器、乾燥砂)を使用すること。

【保管】

- P403+P233+P235 ・ 換気の良い場所で密閉容器に保管すること。涼しいところに置くこと。
- P405 ・ 施錠して保管すること。

【廃棄】

- P501 ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
- 一般名 : アクリル系接着剤
- 化学特性 : 硬化剤や酸化性物質と接触、混合すると発熱を伴う重合反応を起こす。
熱・光により同様に重合反応を起こす場合もある。

成分及び含有量

成分の化学名又は一般名	含有量 (%)	官報公示整理番号 (化審法 No.)	CAS No.
メタクリル酸メチル	20~30	2-1036	80-62-6
ヒドロキシアルキルメタクリレート類	35~45	2-1044	既登録
アクリル系樹脂	25~35	既登録	既登録
その他の添加剤(安定化剤・着色剤等)	≤3	既登録	既登録
鉱油(高度精製油)	0.1~0.3	既登録	既登録

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気、ミストなどを吸入して気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させて、安静、保温に努め、速やかに医師の診断/手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : すぐに拭き取り、多量の水と石鹸で洗い流すこと。かゆみ、炎症等がある場合は、医師の診断/手当を受けること。
汚染された衣類はすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 眼に入った場合 : 清浄な水で最低 15 分間眼を洗浄すること。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
眼科医の診断/手当を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中をよく洗い、無理に吐き出させないようにすること。
直ちに医師の診断/手当を受けること。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 吸引した場合、めまいを起こしたり、鼻、のど等の粘膜を刺激するおそれがある。
眼・皮膚等に触れた場合、刺激し葉傷を起こすおそれがある。
経口摂取すると腹痛、灼熱感、嘔吐、下痢等の症状を起こすおそれがある。

- 応急措置をする者の保護 : 保護者は状況に応じ適当な保護具を着用すること(8.項の保護具の欄を参照)
医師に対する特別な注意事項 : 安静と症状の医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末消火剤、炭酸ガス、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤 : 棒状注水
特有の危険有害性 : 配合成分(メタクリル酸エステル等)の蒸気濃度により爆発を起こすおそれがある。
燃焼や高温により分解し、黒煙、一酸化炭素、窒素酸化物などの有毒ガスを発生する可能性がある。
特有の消火方法 : 初期消火には粉末、炭酸ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には耐アルコール性泡消火器等を使用する。棒状水の使用は火災を拡大させる可能性がある。
周辺火災の場合は、速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合は、周囲に散水して冷却する。
製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行なう。
消火を行う者の保護 : 適切な保護具(防毒マスク、防火用手袋等)を着用し、風上から消火する。
火災発生場所の周囲には関係者以外の立ち入りを禁止する。
大規模火災の場合は爆発の危険性があるので絶対に近寄らず、安全な距離を保つ。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 風下の人を避難させる。
作業の際には吸引、眼・皮膚への接触を防ぐための適切な保護具を着用すること。
保護具及び緊急時措置 : 保護靴、保護手袋、保護眼鏡、防毒マスク等(8.項の保護具の欄を参照)
河川、湖沼へ流入した場合は必要に応じ、警察署・消防署・都道府県市町村の公害関連部署・河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協等に直ちに連絡を取ること。
環境に対する注意事項 : 流路を毛布・土嚢等を用いてせき止め、河川、湖沼への流出を防止すること。
本製品を含む廃水の公共用水域への排出、地下への浸透を防止すること。
封じ込め及び浄化の方法 : 少量の場合は漏出液をウエス等で拭いて空容器に回収する。
及び機材 : 多量の場合は周囲を火気厳禁とし、火花や静電気を発生しない用具を用いて速やかに掻き集め容器に回収する。
二次災害の防止策 : 硬化剤や反応を促進する物質(遷移金属及びその化合物、アミン類、硫黄類、その他の還元性物質、酸化性物質、強酸等)との接触を避けること。
漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどの措置を行い、作業員以外の立ち入りを禁止し、付近の着火源となるものを速やかに取り除くこと。
火花や静電気を発生しない用具を使用すること。
着火した場合に備えて、消火用器材を準備すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 火気厳禁。火気および高温のものを近づけないようにすること。
静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実にすること。
作業場の床が絶縁状態にならないよう配慮すること。
換気装置、照明機器等の電気機器は防爆型のものを使用する。
直射日光、紫外線にさらされないよう使用すること。
適切な保護具を着用し、皮膚、粘膜、着衣または目への接触を防止すること。
安全取扱注意事項 : 局所排気内、または全体換気設備のある場所で取扱うこと。
容器を転倒や落下させる、衝撃を与える、引きずる等の粗暴な扱いをしないこと。
使用後は容器を密閉し、液が漏れないようにする。
接触回避 : 硬化剤や反応を促進する物質(遷移金属及びその化合物、アミン類、硫黄類、その他の還元性物質、酸化性物質、強酸等)との接触を避けること。

衛生対策	: 本製品の変質を避けるため、使用する機器、設備において接着剤と接触する箇所の材質はポリエチレン、ポリプロピレン、テフロン、ステンレスが推奨され、その他の金属やゴム等を使用しないこと。 不純物混入や変質を避けるため、一度取り出した接着剤を容器に戻さないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手、顔等を良く洗い、うがいをすること。 飲食、喫煙をする場所に入る前に汚染された衣類と保護具を取り外すこと。
保管	
技術的対策	: 揮発防止のため容器を密閉して保管する。 熱/火花/裸火/高温のもの等の着火源の周辺で保管しないこと。 重合反応開始の原因となるため、熱、光(紫外線、直射日光)を避けること。 保管量、保管場所は消防法等法令にしたがい、適切に保管すること。 施錠して保管する。
混触禁止物質	: 硬化剤や反応を促進する物質(遷移金属及びその化合物、アミン類、硫黄類、その他の還元性物質、酸化性物質、強酸等)
適切な保管条件	: 冷暗所(5~23℃)。
避けるべき保管条件	: 低酸素状態(金属缶、ガラス瓶等の酸素を完全に遮断した容器での長期保管含む)。減圧状態。適切な保管条件以外の温度条件。
安全な容器包装材料	: ポリエチレン製容器等の酸素を完全に遮断しない、密閉式の破損しないもの。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	
日本産業衛生学会	: 2ppm[メタクリル酸メチル]
ACGIH	: [メタクリル酸メチル(2009年版)]TLV-TWA 50ppm、TLV-STEL 100ppm
設備対策	: 局所排気内、または全体換気設備のある場所で取扱う。 取扱い場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設置し、その位置を明確に表示する。 作業場に消火器等の消火設備を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	: 有機ガス用防毒マスク、状況により、送気マスク、自給式呼吸器を使用する。
手の保護具	: 保護手袋(ポリエチレン製及びその他、不浸透性で耐溶剤性・耐酸性をもつもの)
眼の保護具	: 保護眼鏡(側板付き普通眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	: 直接皮膚に触れることを防止できる帯電防止衣。帯電防止保護長靴。
衛生対策	: 保護具は保管場所を定めて保管し、有効期限を守り、清潔なものを使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	: 粘性液体(白色、グレー色、パーヴェル色)
臭い	: アクリル臭
融点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし (メタクリル酸メチルの沸点: 100.8℃)
可燃性	: あり
引火点	: 10~20℃(セタ密閉式)
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘粘性率	: データなし
溶解度	: データなし
オクタノール/水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし (メタクリル酸メチルの蒸気圧: 3.9kPa (20℃))
密度及び/又は相対密度	: 1.0~1.1 (20℃)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	光、熱、硬化剤や反応を促進する物質(遷移金属及びその化合物、アミン類、硫黄類、その他の還元性物質、酸化性物質、強酸等)との接触により重合を開始する。
化学的安定性	:	指定の保管・取扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性	:	重合開始後急激に反応し、反応熱により高温に達することがある。
避けるべき条件	:	光、加熱、高温、スパーク、裸火、静電気。
混触禁止物質	:	強アルカリ、酸化・還元反応を起こす物質。硬化剤。
危険有害な分解生成物	:	燃焼、高温による分解等より炭化水素(含酸素化合物)、窒素酸化物等の有毒ガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	:	有害性既知成分の ATE より加算式を用い、混合物として区分外と判定した。 但し、混合物の 0.6%は有害性が未知の成分から成る。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分外 アクリル系樹脂 区分外
急性毒性(経皮)	:	有害性既知成分の ATE より加算式を用い、混合物として区分外と判定した。 但し、混合物の 0.6%は有害性が未知の成分から成る。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分外 アクリル系樹脂 区分外
急性毒性(吸入)	:	構成成分について有用な有害性情報が乏しく、分類できないとした。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分外
皮膚腐食性・刺激性	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 2 と判定した。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分 2
眼に対する重篤な損傷・刺激性	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 2A-2B と判定した。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分 2A-2B
呼吸器感作性	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 1 と判定した。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分 1
皮膚感作性	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 1 と判定した。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分 1
生殖細胞変異原性	:	構成成分について有用な有害性情報が乏しく、分類できないとした。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分外
発がん性	:	構成成分について有用な有害性情報が乏しく、分類できないとした。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分外 その他の添加剤の一部(<0.5%) 区分 2
生殖毒性	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 2 と判定した。 ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 3 と判定した。 (専門家判断を実施せず濃度基準を適用した。) ◆有害性既知成分の区分 メタクリル酸メチル 区分 3(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:	構成成分の危険有害性区分およびその濃度から区分 1 と判定した。 ◆有害性既知成分の区分

メタクリル酸メチル

区分1(呼吸器、中枢神経系)

誤えん有害性 : 構成成分について有用な有害性情報が乏しく、分類できないとした。

12.環境影響情報

生態毒性 : [メタクリル酸メチル]48時間EC₅₀ 69mg/L(オオミジンコ)
[その他の添加剤の一部(<1.0%)]96時間LC₅₀ 0.16mg/L(魚類)
残留性/分解性 : 有用なデータなし
生物蓄積性 : 有用なデータなし
土壌中の移動度 : 有用なデータなし
オゾン層への有害性 : 有用なデータなし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物 : 完全硬化していない当製品や、当製品を含む有機溶剤等の廃液、当製品がしみ込んだ布・紙等は都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、産業廃棄物管理表(マニフェスト)を交付して適切に処理する。
地方自治体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器および包装 : 残余廃棄物と同様に関連法規並びに地方自治体の基準にしたがい適切に処分する。

14.輸送上の注意

国際規制
海上輸送 : IMOの規定に従う。

国連番号	品名	国連分類	容器等級	海洋汚染物質
UN1133	Adhesives	Class 3	II	非該当

航空輸送 : ICAO/IATAの規定に従う。

国連番号	品名	国連分類	容器等級	海洋汚染物質
UN1133	Adhesives	Class 3	II	非該当

国内規制
陸上輸送 : 消防法・労働安全衛生法等に基づき積載、輸送を行う。
海上輸送 : 船舶安全法・港則法等に基づき積載、輸送を行う。
航空輸送 : 航空法等に基づき積載、輸送を行う。

国連番号	品名	国連分類	容器等級	海洋汚染物質
UN1133	接着剤	クラス3	II	非該当

輸送の特定の安全対策
及び条件 : 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15.適用法令

消防法 : 危険物第4類第1石油類(非水溶性液体)(危険等級II)
毒物及び劇物取締法 : 該当しない。
船舶安全法 : 危険物 引火性液体類
航空法 : 爆発物等
労働安全衛生法 改正政令(令和6年4月1日施行)に該当

危険物 : 引火性の物

表示対象物 : 表示対象物 メタクリル酸メチル

通知対象物 : 通知対象物 メタクリル酸メチル, 鉱油

皮膚等障害化学物質

・皮膚刺激性有害物質 : メタクリル酸メチル

・皮膚吸収性有害物質 : 該当しない

化学物質管理促進法(PRTR)(令和5年4月1日施行)

第一種指定化学物質 : メタクリル酸メチル

外国為替及び外国貿易管理法 : 輸出令別表第1の16項(キャッチオール規制)

16. その他の情報

引用文献

- ・GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253:2019
- ・GHSに基づく化学品の分類方法 JIS Z 7252:2019
- ・化学工業日報社「化審法化学物質」
- ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合検索システム
- ・中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHS モデル MSDS 情報
- ・原材料の安全データシート

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得る為、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、個々の取扱い等の実態に応じて適切な使用条件を設定くださるようお願いいたします。